

Ⅲ－２ インクジェット機器の技術動向

山中 大樹*、浦川 豊*

1. 調査方法

2025 年 4 月から 2026 年 3 月までに発売されたインクジェット機器について、新聞、雑誌、文献、各社のホームページなどを情報源として調査を行い、動向をまとめた。また、展示会での情報や報道発表などについても注目すべき例をピックアップした。

インクコストなどの数値については、各社が記載している数値をそのまま用いている。

2. オフィス向け機器

オフィス向けインクジェットプリンターの新発売機種は、大容量インクカートリッジや大容量タンクを採用し、消耗品の交換の手間を軽減することに寄与できる製品が各社から発売されている。また、製品本体サイズを小型化することによる省スペースの実現や、消費電力の削減による省エネ性能の向上や環境に配慮した特徴を持つ製品が発売されており、今後もこの動向が継続するものと想定される。

2.1. デュプロ

フルカラーインクジェットプリンター「PX シリーズ」の新商品として、「PX-M8010FX」「PX-M8000FX」を 2025 年 5 月に発売した。本体が稼働するのに必要な消費電力量を大幅に削減しており、最大消費電力はそれぞれ 120 W、64 W、コピー動作時はそれぞれ約 55 W、約 42 W となっている。4 色顔料インクパックで各色 256 階調/1,670 万色を実現している。用紙サイズは A3 から A6、解像度は 600dpi×600dpi に対応している。ピエゾ方式だからこそ実現できる低消費電力で、オフィスの

消費電力削減にも貢献するとのことである。

インクジェットプリンター「LM シリーズ」の新商品として、「LM-C6000」「LM-C5000」「LM-C4000」を 2025 年 5 月に発売した。用紙サイズは A3 から A6、解像度は 600dpi×2,400dpi に対応している。用紙カセットは普通紙で最大 550 枚をセット可能となっている。また、処理速度は 60 枚/分～40 枚/分となっている。低消費電力により、オフィスの消費電力削減にも貢献するとのことである。

2.2. 日本 HP

建築・エンジニアリング・建設・デザイン市場向けの大幅プリンターの新製品として、「HP DesignJet T870 A1 モデル」を 2025 年 10 月に発売した。A1 ノビ対応のコンパクトな大幅プリンターで、ハイブリッドワークや狭いオフィス環境に最適化されている。他社製品の同等モデルと比較して 30%程度軽量化され、静粛性と省エネ性能を向上している。全色で顔料系の「HP Flex Tech インク」を採用し、CAD 図面から教育用ビジュアル、小売 POP まで高品質に印刷可能としている。ロール紙とカット紙を自動で切り替えることにより A4 から A1 までのシームレスなマルチサイズ印刷が可能となっている。大容量インクカートリッジにより、インク交換頻度と手間を低減しワークフローの妨げを最小限に抑えている。また「HP Wolf Security」も標準搭載し、サイバーセキュリティの脅威に対する防御機能を備えている。さらに、電源オン/オフ自動スケジューラーにより最大 60%の省エネも実現しているとのことである。

* 技術調査専門委員会委員

2.3. ブラザー工業

A4 インクジェットプリンター「PRIVIO (プリビオ)」の新製品として、大容量インクで文書印刷に強い「FirstTank シリーズ」など 12 機種「DCP-J4250N」「MFC-J4450N」「MFC-J4950DN」「DCP-J1270N」「DCP-J929N-W/B」「DCP-J529N」「MFC-J908N」「MFC-J943DN/DWN」「MFC-J742DN/DWN」を 2025 年 10 月に発売した。「DCP-J4250N」「MFC-J4450N」「MFC-J4950DN」は、大容量インクカートリッジ搭載で、ブラックインクは 1 本で標準モデル対応のインクカートリッジ約 17 本分、カラーインクは約 14 本分の印刷ができる。また、約 10 万ページの高耐久を実現し、大量印刷のニーズに応える。小さな文字やグラフの細部までくっきりと印刷ができる顔料インクを全色に採用しており、文書印刷でよりきれいな仕上がりを実現している。「DCP-J1270N」は、使いやすさと手頃な本体価格を実現した、大容量インクのエントリーモデルであり、くっきりと印刷ができる顔料ブラックインクと、鮮やかに印刷ができる染料カラーインクの採用で、文書も写真もバランスよくきれいに印刷できる。その他の「標準モデルシリーズ」も印刷品質をさらに高めており、本体サイズが小型化したことで限られたスペースにも設置しやすくなっている。「FirstTank シリーズ」を中心に「文書印刷を極めた大容量」をキーマッセージとして、職場でも家庭でも、お客様の仕事や学習に快適な印刷環境を提供する製品やサービスを強化するとのことである。

高速プリントと高耐久を実現するブラザー独自のインクジェット印刷技術「MAXIDRIVE(マキシドライブ)」を搭載した A3 ビジネスインクジェット複合機の新製品として、「MFC-J7610CDW」「MFC-J7510CDW」「MFC-J7310CDW」「MFC-J7110CDW」「DCP-J7205CDW」を 2026 年 2 月に発売した。従来機種よりも吐出可能な液滴サイズを大きくすることで、高画質を維持しながら印刷速度を向上しており、1 分あたり A4 カラー約 30 ページ、A4 モノクロ約 31 ページの高速プリントを実現している。また、長期使用によるプリントチップの駆動劣化を最小限に抑え耐久性を向上させることで、7 年

間または約 30 万ページの高耐久を実現している。

「MFC-J7610CDW」「MFC-J7510CDW」は 1 ページあたりのインクコストにおいて A4 カラー約 3.9 円、A4 モノクロ約 0.8 円でランニングコストを削減している。また、消費電力は従来機種と比べて約 33%削減しており、コスト削減と環境負荷の低減に貢献するとのことである。

2.4. セイコーエプソン

プリントやコピーの使用状況に合わせてプランや機器を選べる「エプソンのスマートチャージ」対応の新商品として、A3 カラーインクジェット複合機「PX-M8010FX」を 2025 年 5 月に発売した。オール・イン・ワンプランとなっており、機器本体を購入することなく月々の定額費用だけで、基本印刷枚数までプリントが可能となっている。月額費用にはインク・メンテナンスボックスといった消耗品と保守サービスも含まれ、ビジネスで安心して利用できる。また、一目でわかる新 UI を搭載した操作パネル、汚れにくいシートタイプキーを採用した操作ボタン、インクの見えるインク窓の採用など、ストレスなく快適に操作できるよう使い勝手を向上している。さらに、遠隔サポートに対応しており、サービスマンが訪問することなくヘッドクリーニングや再起動などの一部の操作を遠隔で操作できるため、万一のトラブル時でも顧客のダウンタイムを削減するとのことである。

「エプソンのスマートチャージ」対応の新商品として、A3 モノクロインクジェット複合機「LM-M5500」を 2025 年 5 月に発売した。ピエゾ方式の「Heat-Free Technology」を採用し、低消費電力、低 CO₂ 排出量を実現している。また、55 枚/分の高速印刷、かつ、ファーストプリント 6.3 秒と、立ち上がりも速く、少量のプリントから大量プリントまで、高速プリントを実現している。さらに、写真データや色付きのグラフなども高品質な印刷が可能であり、細線や小さな文字もはっきりと印刷できるため、請求書や契約書といった証憑類も高い視認性を維持する。モノクロでの印刷が求められる社内向け資料からお客様にお渡しする書類まで、

あらゆる用途に安心して利用できるとのことである。

エコタンク搭載モデルの新商品として、「EW-M678FT」「EW-M638T」を 2025 年 7 月に発売した。エコタンク搭載モデルは、本体に大容量インクタンクを搭載しており、低印刷コストやコンパクトなサイズ感はそのままに、新プリントヘッドの採用で印刷速度が向上した。また、耐久性が 5 万ページから 10 万ページと倍増し、高い耐久性でビジネスでの利用をサポートできる。さらに、インクタンクのデザイン変更でインク補充がよりスムーズとなり、お知らせ LED の搭載でプリンターの状態がひと目で分かるようになっている。用紙の残量が見える用紙確認窓の装備により、カセット内の用紙残量を外から簡単に確認できるようになり、使いやすさが一段と高まったとのことである。

3. 商業印刷向け機器

商業印刷においては、多品種少量印刷という動向・ニーズへ対応できる製品を発売することに加えて、昨今の人手不足に対応できるよう顧客の生産性向上にも寄与できる特徴を持つ製品の開発が近年の流れである。調査機関内（25 年 4 月～26 年 3 月）の発売機種は 1 件にとどまったものの、Page2026 などの展示会において、将来の発売予定機種や、既存機種のアップデート情報などもあり、今後の動向に注意していく。

3.1. コニカミノルタ

「HS-UV インク」の B2 サイズインクジェット印刷機「AccurioJet 30000」を 2025 年 4 月に発表した。「AccurioJet KM-1/KM-1e」の後継機にあたり、drupa2024 で出展した「AccurioJet 60000」との 2 機種を揃えて、印刷会社のニーズに応じた機種選択を可能にすることで、アナログ印刷からデジタル印刷への本格的な移行を加速させるとのことである（「AccurioJet 60000」の発売時期は未発表）。「AccurioJet KM-1/KM-1e」で市場から高評価を得た独自の「HS-UV インク」を踏襲し、ドット形状のゆがみや色滲みを軽減、プレコートなしでのさまざまな印刷用紙への対応、乾燥工程がないことによる紙の波打ちや

カールの防止などの高品質な印刷物を提供する。それに加えて、RIP 時間を削減する新規機能の搭載や Pre-RIP 機能の活用による印刷時の待機時間の削減など、印刷工程全体の生産性の最大化という価値を提供している。また、「Quality Inspection Unit」を新たに搭載し、印刷中に自動で精度の高い全数検査を行うことで、検査工程の手間と時間を大幅に削減することを可能としている。

4. 産業印刷向け機器

産業印刷は、デジタル化による成長分野であることから、今年度も多くの新機種が発表されている。昨年に引き続き、大判印刷、高速印刷だけでなく、軟包装やパッケージ、サイングラフィックス、テキスタイルや立体物など電子写真方式では難しい材料にも印刷できる製品が多数発売されている。また、近年の環境意識への高まりに配慮した設計をされている機種も多く、法規制への対応強化も含め、今後の動向を注視したい。

4.1. ローランド ディー・ジー.

UV フラットベッドプリンター「VersaOBJECT L0-640/L0-300」を 2025 年 4 月に発売した。さまざまな立体物に高精細なダイレクト印刷が可能な「VersaOBJECT シリーズ」の追加モデルである。従来機の「VersaOBJECT C0-640i/L0-300」と比較して、「L0-640」では約 3 倍となる 5.0 m²/h、「L0-300」では約 2.6 倍となる 3.4 m²/h の高速出力を実現している点が特長である。従来機と同様に、使用する「EUV5 インク」では、CMYK に加えて、オレンジ、レッド、クリア、ホワイト、プライマーを用意し、多彩な色彩表現や質感再現を可能としている。また、安定した印刷品質を保つための静電気除去装置や自動クリーニング機構や、稼働状況の可視化などを行うソリューションも従来機同様に提供し、顧客のビジネスの創造性と付加価値の向上に貢献できるとのことである。

立体的なテクスチャ表現ができる独自のテクノロジーを搭載したデジタルプリントソリューション「DIMENSE（ダイメンズ）DA-640」を 2025 年 6 月に発

売した。熱を加えると発泡する専用メディアと、発泡をコントロールするストラクチャーインクを用い、インクジェットプリンターで印刷後、内蔵されているヒーターでメディアを加熱すると、ストラクチャーインクを塗布していない箇所が最大 2 mm の高さまで発泡して凹凸を表現する。奥行きと存在感のある独自性の高いグラフィックを必要な枚数だけ製作でき、インテリア装飾の可能性を大きく広げるとのことである。さらに、凹凸表現後に手作業で塗装することで、ペイント作業に必要な塗料や刷毛などのツール類をセットしたサブライ品も提供している。専用メディアは、マット、スエード、シルバー、ゴールド、パール、カメレオンなど豊富な種類を揃えている。また、高い耐擦過性を実現したものや、壁紙などの施工物の性能を定めた米国の建築基準規制である Type II に対応したメディア、さらには、テンションファブリックやロールアップバナーなどの屋内サイン&ディスプレイ用もあり、用途に合わせて最適なメディアを選択可能である。

「DIMENSE」によるユニークな表現力は、デザイナーやプランナーの感性を刺激し、創作意欲を掻き立て、クライアントの想いやブランドストーリーまでも感じさせる今までにない高付加価値な成果物を生み出していくとのことである。

4.2. 日本 HP

屋外および屋内アプリケーション向け大判プリンター「HP Latex シリーズ」の新製品として、「HP Latex R530 プリンター」を 2025 年 5 月に、「HP Latex 730/830 プリンターシリーズ」を 2025 年秋以降に発売すると発表した。「HP Latex R530 プリンター」は、リジッド（ボード）素材とロール素材の両方に対応するオールインワン型プリンターであり、従来は別々の設備が必要であったリジッド印刷とロール印刷を 1 台で実現する点が大きな特長である。これにより、マウント加工などの後工程を省略でき、作業効率の向上と廃材削減に貢献する。コンパクト設計かつ単相電源対応とすることで、中小規模の出力事業者にとっても導入しやすい設計となっている。「HP Latex 730/830 プリンタ

ーシリーズ」は、従来の「HP Latex 630 プリンター」の後継機に位置付けられるロール専用モデルである。新たにデジタルカラーパイプライン「HP Pixel Control」を採用し、少ないパス数でも均一性と安定性に優れた高画質印刷が可能となった。新世代のインクおよびプリントヘッドアーキテクチャーにより、細かな文字やグラフィックの再現性も向上している。また、メンテナンスカートリッジの長寿命化や、ユーザー交換可能なプリントヘッドの採用により、運用負荷とランニングコストの低減を図っている。上位機である「HP Latex 830 プリンターシリーズ」では、作業を停止せずに交換可能な 3 リットルの HP インクカートリッジを採用し、稼働率のさらなる向上を実現した。これらの新製品は、受注から生産までを一元管理できる「HP PrintOS Production Hub」との連携にも対応し、ワークフロー全体の効率化を支援するとのことである。

デジタルラベル印刷市場向けの「HP Indigo 6K+ デジタル印刷機」を 2025 年 11 月に発売した。世界で 2,300 台以上の導入実績を持つ「HP Indigo 6K デジタル印刷機」をベースに、近年加速する多品種少量生産、短納期化、SKU の細分化といった市場ニーズへの対応力を強化したモデルである。新たに搭載された「SmartControlSystem」とインテリジェント・オートメーション機能により、診断精度や印刷機の堅牢性が向上し、予期せぬ停止やメンテナンスによるダウンタイムを低減するとともに、1 シフトあたりのジョブ生産量を増加させることが可能となった。従来機と比べ、稼働率の最大化と廃棄物削減を両立している点が特長である。また、「HP PrintOS Suite」や「Automatic Alert Agent 2.0」などの自動化ツール群との連携により、リアルタイムの状況把握、セットアップ時間の短縮、直感的なトラブルシューティング、自動カラー管理を実現し、オペレーターの業務を強力に支援している。また、感圧ラベル、シュリンクスリーブ、インモールドラベル（IML）、ラップアラウンド、ラミネートチューブ、軟包装、紙器など、多種多様なラベルに対応している。さらに、7 つのインキステーションとスポットカラーを備え、色域の最大 97%をカバーする。

シルバーエレクトロインキをはじめ、インビジブルインキ、耐光性インキ、豊富なホワイトインキなど、業界最広範の特殊インキのラインアップにより、鮮やかでインパクトのある印刷を実現するとのことである。

4.3. 武藤工業

エコソルベントインクジェットプリンター「XpertJet 1641SR Pro II」を 2025 年 10 月に、「XpertJet 1681SR Pro」を 2025 年 3 月に発売した。同一色を近接に配置可能な 8 列ノズルの新プリントヘッド「AccuFine HD Pro」と、新たに開発した印刷コントロールシステム「i-Screen EX System」を組み合わせることで、高画質と安定した印刷制御を両立している。8 列ノズルイメージによる高精度なインク吐出制御により、色の均一性や階調表現が向上し、バンディングの少ない安定した高画質印刷を実現した点がシリーズ共通の特長である。また、メディア残量をバーコードで管理する「Media Tracker」機能や、ノズル詰まりが発生した場合でも正常ノズル範囲を選択して印刷を継続できる「Nozzle Area Select」機能を備え、作業効率と稼働率の向上に寄与する。インクには、UL GREENGUARD Gold 認証を取得したエコソルベントインク「MS41」を採用し、環境負荷低減とオペレーターへの配慮も図っている。4 色仕様の「XpertJet 1641SR Pro」は、これらの共通技術を生産性重視の設計に最適化したモデルであり、実用印刷モードにおいて 17.63 m²/h と、同 4 色モデルとして最高クラスの生産性を実現している。一方、8 色仕様の「XpertJet 1681SR Pro」は、印刷速度は実用印刷モードにおいて 8.79 m²/h であり、ライトインクによる滑らかな階調表現とオレンジインクによる暖色域の鮮やかな発色を特長とし、表現力と色再現性を重視したモデルとして位置付けられる。両機種により、屋内外サイン、展示会グラフィック、カーラッピング、POP など幅広い用途において、Made in Japan Quality の高品質な出力を提供するとのことである。

4.4. キヤノン

カラーラベルプリンター「LG-P800」を 2025 年 10 月に、「LX-D400」を 2026 年 3 月に発売した。8 インチ幅対応の「LG-P800」は、新開発の顔料インクを採用することで、高精細・高画質な商品ラベル印刷を実現している。光沢紙、合成紙、光沢フィルムなど多様なメディアに対応し、デザインソフトとの連携により自由度の高い表現が可能である。擦過性・耐水性に優れ、物流から店頭陳列までラベル品質を維持できるほか、GHS ラベルなど厳しい環境での使用にも対応することである。4 インチ幅対応の「LX-D400」は、高速印刷性能を特長とするモデルで、最大 330 mm/s の高速カラー印刷により、ラベル制作の時間を大幅に短縮できる。頻繁なデザイン変更や商品情報更新にも柔軟に対応し、業務効率化に貢献する。さらに、オプションの RFID ユニットを利用することで、RFID ラベルの印刷とデータ書き込みを同時に行うことができ、物流・製造分野における在庫管理やトレーサビリティの高度化、省人化を支援するとのことである。

A1 ノビ対応デスクトップ大判プリンター「imagePROGRAF TC-21M」を 2025 年 4 月に発売した。A4 サイズのフラットベッドスキャナーを標準搭載し、A4 サイズなどの原稿からの拡大コピーや、複数枚の A4 原稿をロール紙にレイアウトしてコピーできるため、店頭バナー制作などに活用しやすく、幅広いビジネス・教育の現場における大判印刷の活用を支援するとしている。また、用紙セットやインク充填など印刷に関わる全ての操作を本体前面から行うことができる省スペース設計を、従来機種から継承しつつ、操作パネルをチルト式にしたことでユーザーの目線に合わせて角度調整ができるため、机上はもちろん、棚の下などにも置いても画面の操作や確認がしやすく、設置場所の選択肢が広がる。さらに、本体原材料として使用する鉄の約 5%に再生鉄を、樹脂の約 40%に再生樹脂を採用し、製品梱包材には発泡スチロールを使わず、全て段ボールに切り替え、環境にも配慮した設計となっている。

4.5. ミマキエンジニアリング

エコソルベントインク搭載 Roll to Roll プリンター「JV200-160/130」を 2025 年 4 月に発売した。従来製品である「CJV200 シリーズ」の画質・生産性と手軽に高画質を得られる操作性を維持し、カット機能を削減したプリント専用モデルである。すでにプリント後加工用のカッティングマシンを持っている制作会社にも、現在のワークフローはそのままに、高い印刷品質と生産性を向上する最新機能を体感できるとしている。

UV-DTF プリンター「UJV300DTF-75」を 2025 年 6 月に発売した。専用のフィルムにプリントしたデザインを対象の素材に転写する加飾方式である。従来の UV プリントでは難しかった、凹凸や曲面のある素材の表面にも、簡単に加飾ができる。フィルムにプリントしたデザインのみが対象物に転写されるため、ステッカーシートのようなカス取り（余白の除去）作業が不要である。加えて、独自開発のシリコン製ピンチローラーを搭載し、フィルムの糊の剥がれを抑え、安定した搬送を実現している。また、「UCJV300 シリーズ」の高画質と安定性を実現する機能を受け継ぎ、安心して使用できるプリンターとのことである。

昇華転写用インクジェットプリンター「TS200-1600」を 2025 年 10 月に発売した。「TS330 シリーズ」の高密度・高精細プリントヘッドをシングルで搭載し、均一で美しい高濃度カラーや精細なデザインを表現できる。インクは標準 4 色に加え、新色のバイオレットとオレンジをラインアップし、高級感のある青紫色や、鮮やかでメリハリのあるオレンジ色の階調を再現し、ファッションアパレルやユニフォームのデザインをより鮮明に仕上げるとしている。また、従来から濃度を一段と高めた蛍光ピンク・蛍光イエローも選択可能で、ブランディング効果の高いスポーツウェアやフラッグの制作に最適とのことである。さらに、万が一プリントヘッドのノズルに不具合が生じた場合でも、「NRS（Nozzle Recovery System）」を活用することで、不具合のあるノズルを登録してプリントを継続し、サービスエンジニアの修理を待たずに作業を続行できるため、ダウンタイムを最小限に抑え、安定した生産を実現している。

フラットベッド UV インクジェットプリンター「UJF-7151 plusII e」を 2025 年 11 月に発売した。従来機で高く評価されたクラストップレベルの印刷精度と生産性を継承しながら、インク厚盛性能と高低差対応力を大幅に強化したモデルである。最大 5 mm のインク積層により、エンボス感や立体的なテクスチャ表現が可能となり、グッズ制作や、加飾デザインの表現幅を大きく広げるとしている。また、インク吐出部から最大 10 mm 離れた基材の面にもインクが届き、曲面や段差のある成形品、工業部品などへのプリントにも対応している。さらに、プライマー塗布の高速化で工業素材のプリント生産性を向上し、簡単な操作でランニングコストを削減できるインクセーブ機能を備え、お客様の生産品質向上と業務効率化に貢献するとのことである。

昇華転写用インクジェットプリンター「TS330-1800」を 2026 年 1 月に発売した。1,610 mm 幅で印刷できる従来モデル「TS330-1600」で高い評価を得てきた高画質・高生産性を継承しつつ、最大 1,940 mm のプリント幅に対応し、従来の約 1.6 m 幅モデルでは分割出力が必要だったカーテンやタペストリーといったインテリアファブリックを一体で出力できる点が特長である。また、色表現の強化を目的に、新たにバイオレットおよびオレンジインクをラインアップに追加したほか、濃度を高めた蛍光ピンク・蛍光イエローインクにも対応する。これらを含む全 11 色のインクから用途に応じて最大 8 色を選択でき、スポーツウェアやファブリックサインなど、高い視認性やブランディング性が求められる用途において、より幅広く訴求力の高い表現を可能とのことである。

4.6. セイコーエプソン

DTF 専用プリンター「SC-G6050」を 2025 年 5 月に発売した。エプソン初の DTF 専用プリンターで、充実した自動メンテナンス機能を搭載し、プリントヘッドを清潔に保つために必要な「吸引キャップ」には自動クリーニング機能を搭載。また、ロール式の布製ワイパーを搭載し、常に新しい布でプリントヘッドを拭きと

るため、毎日の部品清掃が不要となる。さらに、ホワイトインクの自動循環システムでインク詰まりを防ぐなど、充実した自動メンテナンス機能により、メンテナンス工数を大幅削減しながら安定稼働を実現することである。標準モードで 5.6 m²/h、グラフィック T シャツやトートバッグ制作におすすめの高画質モードで 3.4 m²/h のスピードで印刷が可能であり、Direct to Film ならではの鮮やかな発色と、短納期でも安心して作業が進行できる生産性を兼ね備えているとのことである。

エコソルベントインク搭載の大判インクジェットプリンター「SC-S7150」を 2025 年 7 月に発売した。従来機「SC-S40650」にはなかった「ノズル自己診断システム」機能を搭載し、プリントヘッドのドット抜けを印刷ジョブごとに自動で検知してパネル上にアラートを表示することで、ドット抜けにいち早く気付くことで、プリントミスによる無駄を最小限に抑える。また、プリントスピードは約 28%向上し、4.3 インチの光学式タッチパネルを搭載して操作性を良くし、顧客の生産性と操作性の改善を実現している。

エコソルベントインク搭載の大判インクジェットプリンター「SC-S8150」を 2025 年 9 月に発売した。新プリントヘッド採用により、従来機「SC-S60650/SC-S60650L」と比較して約 33%のスピードアップを実現している。また、ホットスワップ対応によって印刷中でも作業を止めずにインク交換が可能になった。長時間稼働でも安定した生産性を維持し、印刷現場の業務効率化に貢献することである。さらに、ライトシアンとライトマゼンタのインクの採用や、文字の輪郭を際立たせる「テキストシャープネス機能」、温度変化を正確に検知する「ノズルインク温度センサー」を搭載し、長時間の印刷でも安定した色再現性を保つことができる。加えて、「ノズル自己診断システム」を搭載し、プリントヘッドのドット抜けを印刷ジョブごとに自動で検知し、画質を補完し、高画質プリントを維持するだけでなく、プリントミスによるムダを防ぐとのことである。

禁 無 断 転 載

2025 年度「ビジネス機器関連技術調査報告書」 “Ⅲ－2” 部

発行 2026 年 6 月

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）

技術調査専門委員会

〒108-0073 東京都港区三田三丁目 4 番 10 号 リーラヒジリザカ 7 階

電話 03-6809-5010（代表） / FAX 03-3451-1770